

校長室の窓から

～夢の扉 第46号～青森(卒業式)編 R3.3.1(月)

卒業式を挙行了しました。

文責 学校長



～卒業生231名の人生に幸多からんことを祈ります～

1 武雄高校での3年間はいかがでしたか。

前期日程試験を終え、ほっと一息ついているところでしょう。武雄高校での3年間の高校生活はいかがでしたか。私の高校時代は共通一次試験時代で、卒業式の後に全国统一の大学入試二次試験(国公立の受験機会は1回のみ)が予定されていたので、卒業の実感がなかったように思いますし、卒業式の日の午後学校に残り問題演習に取り組んでいた記憶があります。諸君の場合も、まだ前期日程試験が終わったばかりです。合格の切符をつかみ取るまでは中期・後期に向けて最後のもうひと頑張りを続けましょう。『焦らず・弛まず・怠らず・挫けず・驕らず・諦めず!!』



2 同窓会入会式が行われました。～卒業10周年で第12回生の同窓会を～

昨日(2/28)、3年生の「同窓会入会式」が行われました。同窓会副会長・徳永壮太郎様の歓迎のご挨拶、常任幹事・尾形浩雅くんの入会の言葉の後、常任幹事・竹下咲さんに記念品(ネームペン)が贈呈されました。来年度以降、各支部から案内が届きますので、是非参加して、先輩とのコネクション(縁故)を作り、就職活動に活かしてください。なお、卒業10周年で12回生の同窓会をぜひ開催してください。(それ以前の開催も大いに結構です)また、**卒業25周年目(43歳時)に東京支部総会の担当幹事が回ってきます**ので、関東在住者を中心に佐賀からも応援部隊を派遣して執り行うことになります。武陵会OBとして若い力に大いに期待します。

3 今週の話事成語・・・「一陽来復」【問題】「一陽来復」を英語で表現すると？

再び幸運が向いてくること。苦難の時代を経て、再び明るい前途が開けてくること。

(出典：『周易本義』・復卦より)

【由来】陰(冬)が過ぎて、陽(春)が再びめぐってくることで、冬至のことをも言います。本来「一陽来復」には、3つの意味があります。1つ目は「(月の満ち欠けに基づいた暦である)陰暦11月」や「冬至」という意味です。この意味は「一陽来復」の元来の意味です。次に、2つ目は「冬が終わり春が来ること」や「新年が来ること」という意味です。「冬至」の時期から、徐々に日がのびて春へと向かうことが由来です。そして、3つ目は「悪いことが続いた後で幸運に向かうこと」という意味です。この意味は、「陰の気がきわまって陽の気にかえる」、つまり悪いことが去ってよいことが訪れ始めるという考えから来ています。コロナ禍の後にはきっと明るい未来が待っています。

4 今週の一言・・・小説家・太宰治(青森県出身)の言葉です。

○学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。

○一日一日を、たっぴりと生きていくより他はない。明日のことを思い煩うな。明日は明日みずから思い煩わん。今日一日を、よろこび、努め、人には優しくして暮らしたい。

【解説】太宰治は、最後には自ら命を絶ってしまった作家ですが、その苦悩の生涯の中から絞り出した珠玉の言葉の数々が作品の中にあふれています。一つ目は、学問のあり方について述べた言葉で、一つかみの砂金を手に入れるための日々の勉強の必要性を訴えています。二つ目は、人間の生き方について述べた言葉で、一日一日を精一杯生きることの大切さを述べています。卒業生諸君、長い人生です。一日一日を大切に生き抜いてください。

【太宰治について】本名は津島 修治。1909年(明治42年)生まれ。小説家。青森県津軽の大地主の家に生まれる。自殺未遂や薬物中毒を克服し戦前から戦後にかけて多くの作品を発表。没落した華族の女性を主人公にした『斜陽』はベストセラーとなる。その作風から坂口安吾、織田作之助、石川淳らとともに新戯作派、無頼派と称された。主な作品に『走れメロス』『津軽』『お伽草紙』『人間失格』がある。1948年(昭和23年)6月19日に玉川上水での入水心中により生命を絶つ。その日は奇しくも誕生日の日であった。彼をしのんで毎年6月19日命日に『桜桃忌』として、墓のある東京都三鷹市の禅林寺で法要が行われる。作品「桜桃」による命名である。(参考:「Wikipedia」より)

5 入試によく出る漢字・・・『必須ベスト100』から・その2 いくつか書けますか？

- | | | |
|----------------|---------------------|--------------------|
| ①児童の知能をケイハツする。 | ②進学率の低下は学力不足にキインする。 | ③流行性のカンボウにかかる。 |
| ④若かりし日をカイコする。 | ⑤人生についてカイギの念を抱く。 | ⑥心臓イシヨクの手術を受ける。 |
| ⑦体質がイデンする。 | ⑧深謀もエンリョもない軽率さ。 | ⑨未開の地をカイタクする。 |
| ⑩自由をソクバクする。 | ⑪民族学のタイケイを打ち立てた。 | ⑫チメイ的な打撃を受ける。 |
| ⑬契約をハキする。 | ⑭ヒキンな例をあげて説明する。 | ⑮心理ビョウシヤの得意な作家。 |
| ⑯夫のヒレツな行為を責めた。 | ⑰水と油がブンリする。 | ⑱調査なしでそれをするのはボウケン。 |
| ⑲不人情でレイタンな男。 | ⑳実行しないでリクツばかり言う。 | |

6 今週の一冊・・・丸山俊一氏の『AI以後』（NHK出版）です。

「人間vs.AI」を超えた、時代の半歩先を思考せよ。万能論や脅威論を超え、フラットに現状を見つめることで見えてくる、テクノロジーの真のリスクと可能性。人類は、そして世界はこれからどうなるか!?世界の異能の知性が語る、人類とAIをめぐる最先端のビジョン。これが進行中の未来の姿だ。

(参考：本書表紙・裏表紙説明より)

【解説】マックス・テグマーク（宇宙物理学者・MIT教授）、ウェンデル・ウォラック（倫理学者・イエール大学研究員）、ダニエル・デネット（哲学者・タフツ大学教授）、ケヴィン・ケリー（著述家・編集者、「WIRED」元編集長）の異ジャンルの四人の知の巨人たちの知見をまとめた一冊です。彼らが語るAI登場以後のビジョンを通して、今これから何が起きようとしているのか、人工知能の真のリスクと可能性を認識し、この変化の時代を生きるためのヒントを探す思考の旅をこの一冊は経験させてくれます。理系志望者にお勧めの一冊です。

【作者・丸山俊一について】1962年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、NHK入局。「欲望の資本主義」「欲望の時代の哲学」「人間ってナンだ? 超AI入門」他、時代を独自の視点で斬る異色の教養番組を企画、制作し続ける。現在NHKエンタープライズ番組開発エグゼクティブ・プロデューサー。著書『14歳からの資本主義』『マルクス・ガブリエル 欲望の時代を哲学する』ほか。東京藝術大学客員教授、早稲田大学非常勤講師を兼務。(参考：本書著者紹介より)

7 日本全県の名所とスイーツめぐり…第46回は青森県です。

○名所 (参考：「マイトリップ」その他より)

◆奥入瀬溪流・・・十和田湖の子ノロから鳶川と合流する約14キロメートルの奥入瀬溪流。深い自然林に覆われた躍動感のある景観が美しく、両岸に迫る断崖は、軽石や火山灰が高温の状態で堆積した溶結凝灰岩で、迫力のある眺めをもたらしています。溪流沿いに整備された車道と歩道沿いには「阿修羅の流れ」や「鮎子大滝」などの見どころも点在しています。

◆青森ねぶた祭・・・夏の東北は祭り一色！毎年8/2～7に開催される、日本の火祭り「青森ねぶた祭り」を筆頭に、8/1～7の「弘前ねぶた祭り」、8/4～8の「五所川原立佞武多」は青森三大ねぶたと呼ばれ、地域ごとに呼び名や掛け声も違います。また、豪華な飾りと精密な人形が仕掛けられる、7/31～8/4の「八戸三社大祭」も必見です。

○スイーツ・土産

【気になるりんご】青森土産のアップルパイ「気になるりんご」は、新鮮な青森のりんごの食感を味わえる銘菓です。中に入っているりんごはふじですが、期間限定で紅玉もあります。甘さを控えめにしたシロップに、りんごを一個まるごと漬け込んだ物をパイで包み、焼き上げています。りんごがまるまる一個、パイ生地で包んであるアップルパイは、シャキシャキとした歯ごたえがあります。知り合いへのお土産はもちろん、自分用にも外せない定番のお土産となっています。

【昆布羊羹】明治24年、青森県青森市で茶店として開業した甘精堂の銘菓です。当時青森の特産品だった昆布に着目し、青森らしい和菓子として昆布羊羹を考案。以来、100年以上愛され続けている、歴史あるお菓子です。良質の昆布を粉末状にし、白あんと一緒に練り込んだ昆布羊羹。そのままでは臭みが出たり、逆に昆布の風味が消えてしましますが、独自製法により旨味だけを残して仕上げています。

8 保護者の皆様へ…3年生の保護者の皆様、ご理解・ご協力ありがとうございました。

3年生の保護者の皆様、この3年間のご理解・ご協力に感謝申し上げます。また、この校長通信「校長室の窓から」に1年間お付き合いいただき誠に有り難うございました。3年生諸君は今までに誰もが経験したことのない様々な逆境の中でよく頑張ってくれたと思います。大学入試制度の転換期（センター試験から大学入学共通テストへの移行）、英語の外部検定試験導入・記述式問題の導入の突然の見送り、新型コロナウイルスの世界的な拡大とそれに伴う長期の休校措置、大会・イベントの相次ぐ中止、学校行事（武陵祭など）の縮小、リモート集会・講演会など数えきれない逆境の中、よく辛抱し頑張ってくれました。次のステージへも胸を張って進んで欲しいものです。いつの日か「コロナ世代は逞しい」と言ってもらえる未来が来ることを期待しています。明日から、また3年生の入試対策(中期・後期)の特別授業は再開します。最後の最後までチャレンジさせてください。追加合格の可能性も十分あります。

【表面の問いの答】◇ the arrival of spring after winter(冬が終わり春が訪れる) ◇ turning from the negative to the positive(不調が終わり良い方向へと移り変わる) ◇ The darkest hour is just before the dawn.(夜明け前が一番暗い)																			
①啓発	②起因	③感冒	④回顧	⑤懷疑	⑥移植	⑦遺伝	⑧遠慮	⑨開拓	⑩束縛	⑪体系	⑫致命	⑬破棄	⑭卑近	⑮描写	⑯卑劣	⑰分離	⑱冒険	⑲冷淡	⑳理屈